

平成25年行政事業レビューシート							(復興庁)	
事業名	畜産農家段階放射性物質モニタリング体制構築事業 (農水省)		担当部局庁	復興庁		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	平成25年度～平成27年度		担当課室	統括官付参事官(予算・会計担当)		参事官 大野 秀敏		
会計区分	東日本大震災復興特別会計		政策・施策名	復興施策の推進 東日本大震災からの復興に係る施策の推進				
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	-		関係する計画、通知等	-				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	福島第一原子力発電所事故により避難を余儀なくされていた地域等において生産される畜産物等に対する消費者の信頼を確保し、畜産農家の経営再開に資する観点から、生産資材・堆肥等の放射性セシウムモニタリング体制の構築を図る。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	①畜産物の放射性セシウム汚染を防止するためのガイドラインの作成、消費者の理解醸成を図るためのシンポジウムの開催、産地指導者の養成(補助率:定額) ②モニタリング検査の体制・実施計画の検討、産地指導者による現地指導、放射線測定機器等のリース導入支援(補助率:定額、リース物件費のうち1/2相当額) ③放射性セシウム検査室及び飼料等保管庫の整備 (補助率:1/2)							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度要求	
		補正予算				96	96	
		繰越し等				-		
		計				96	96	
	執行額							
	執行率(%)							
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	22年度	23年度	24年度	目標値 (32年度)
	震災発生後の23年度と比較して、地域において生産される畜産物の生産量が10%増加		成果実績	%	-	-	-	110
			達成度	%	-	-	-	
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	22年度	23年度	24年度	25年度活動見込
	事業実施件数		活動実績 (当初見込み)		-	-	-	-
単位当たりコスト	検査室・飼料保管庫等整備コスト 27,500千円/件		算出根拠	検査室・飼料保管庫等整備費55,000千円/2件=27,500千円/件				
平成25・26年度予算内訳	費目	25年度当初予算	26年度要求	主な増減理由				
	(目)国産農畜産物・食農連携強化対策事業費補助金							
	畜産農家段階放射性物質モニタリング体制構築事業	41	41					
	(目)国産農畜産物・食農連携強化対策整備費補助金							
	畜産農家段階放射性物質モニタリング体制構築事業	55	55					
	計	96	96					

事業所管部局による点検													
	項目	評価	評価に関する説明										
国費投入の 必要性	広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。	○	本事業は、原子力発電所事故の影響により避難を余儀なくされていた地域等における営農再開等を支援するものであり、国、県、市町村、地域が一丸となって推進すべき取組である。 また、政策目標としては、被災地域における畜産物生産量等の回復としており、原子力発電所事故からの復旧・復興を図る上で優先度の高い事業である。										
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○											
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。	○											
事業の 効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	事業概要の欄のうち、①の事業は公募及び第三者委員会により事業実施主体が選定されることから、競争性が確保されるとともに、事業内容の妥当性についても審査されることとなる。 また、②、③の事業については、県計画として事業計画が策定され、県において事業実施主体、事業規模、補助金の用途等の妥当性が審査されることとなる。										
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○											
	単位当たりコストの水準は妥当か。	—											
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	—											
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○											
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	—												
事業の 有効性	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	—	平成25年度新規事業であり、今後検証。										
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	—											
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	—											
重複 排除	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。 (役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	—	<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業番号</th> <th>類似事業名</th> <th>所管府省・部局名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		事業番号	類似事業名	所管府省・部局名						
	事業番号	類似事業名			所管府省・部局名								
点検 結果	本事業は、避難区域等において畜産経営を再開するために必要な消費者の理解醸成・消費者の信頼を確保するためのモニタリング体制を構築するための事業であり、本格的な営農再開に向けて優先度の高い事業である。												
外部有識者の所見													
行政事業レビュー推進チームの所見													
-	消費者の信頼を確保し、畜産農家の経営再開に資するため、生産資材・堆肥等の放射性セシウムモニタリング体制の構築に向けて、引き続き効率的な予算の執行に努めること。												
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況													
-	引き続き効率的な予算の執行に努めていく。												
備考													
関連する過去のレビューシートの事業番号													
平成22年		平成23年	平成24年	25新-10									

※平成24年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何をやっているかについて補足する)(単位:百万円)

